言語行動領域に於ける條件形成研究の動向　その二、方法論、強化及び媒介汎化の諸問題

<table>
<thead>
<tr>
<th>著者</th>
<th>石原 岩太郎</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>雑誌名</td>
<td>人文論究</td>
</tr>
<tr>
<td>巻</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>号</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ページ</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>発行年</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ISBN</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
言語行動領域における条件形成研究の動向

言語行動領域における条件形成研究の動向

その一　方法論　強化及び媒介化の諸問題

石原　岩太郎

一　言語行動についての条件形成研究の動向

考察する前には、言語行動、更に広く記号学の研究方法について一言を発せねばならない。勿論我々は全くの素人であるが、人間の個の人の並びに社会的行動の科学的研究家として、言語行動の研究法を反省することとは許されぬ事であると思われる。

ソシュールの言語学から出発した小林英夫は、我々の思想、感情を文言のものに通達すべき物的手段が記号である。記号による進歩を示している今日の言語学において、何らかの発言を有すると自覚するものではないが、人間の個の人的と並びに社会的行動の科学的研究において、よい事であると思う。

ソシュールの言語学から出発した小林英夫は、我々の思想、感情を文言のものに通達すべき物的手段が記号である。記号によつて通達される当事者の思想、感情を意味しと述べている（5・pp.44-45）。彼の言語学の心理学者は、既に過去のものである。一般に言うつて、一科学が隣接科学の業績を導入する時には、何程かの時間的すれが見られる。
言語行動領域における条件形成研究の動向

媒介語又は意味論的汎化の研究は、第一に言語の象徴或は記号としての機能の解明に役立つ。第二に、それは汎化概念自体の究明に資するところ大である。媒介語の研究を進めると、その大綱の上から（1）刺激対象に対する条件反応を形成した後に、それを指示する対象についての汎化を検討するもの、及び（2）反応側に分類し得る対象に対する条件反応を形成した後に、その記号（記号）についての汎化を検討するもの、（2）と逆に、記号に対する条件反応を形成した後に、その対象の名称（記号）についての汎化を検討するもの、及び（3）反応側に分類し得る対象に対する条件反応を形成した後に、それが指示する対象についての汎化を検討するもの、及び（4）自体の定義の指標は、誤書と連想との連用に求められた。故に、第1の事実の媒介語を意味する（記号）と、専門用語の（記号）を用いた。二等間の（記号）を意味する（記号）と、専門用語の（記号）を用いた。二等間の（記号）を意味する（記号）と、専門用語の（記号）を用いた。

豫備的研究（18）は、エビングハウスがその期期的な記憶研究に基づいて自らを被験者として知り、彼自身に就いて行なった例を示す。この種の研究ではラズーランのものが主であって、彼の研究も多くは彼の先駆とされている。ラズーランの最初のうちの「唾液」を考察した。その間に分泌される唾液量を測定したのである。示照条件として、彼のグレーソンール語の（記号）が、スペイン語及びポーランド語で、ラズーラン時代の言葉であったが、自らでは無意味の言葉が発達し、反応唾液量が現実最も自由な言葉に対しては少なく、幼少年時代の常用語に対して最大を示したことは甚だ興味ある事実である。なお、これと同様に、多くの例が見られる。その使用頻度にいて、各々の言葉に対する彼の知識と、その使用頻度にいて、各々の言葉に対する彼の知識と、その使用頻度にいて、各々の言葉に対する彼の知識と、その使用頻度にいて、各々の言葉に対する彼の知識と、その使用頻度にいて、各々の言葉に対する彼の知識と、その使用頻度にいて、各々の言葉に対する彼の知識と、その使用頻度
との関数として変化したものと言える。

右の実験の数年後にラズランの報告した実験（18）は、リース（18）がウィリー（2）の実験の原形となったものである。

ラズランは、人々の成人を被験者として、彼等が食事中に「style, urn, freeze, surf」の四語を聴覚的に示し、それらの各語及び同義語である「fashion, vase, chill, wave」の各語を示してそれぞれに対する唾液量を測定した。次に相等のそれぞれに対して同音異義語である「stil, earn, frize, serif」の四語を聴覚的に示し、これら刺激語の平均値は同義語に対するばかりを示す。こうした実験は、すなわち、リース（18）は、ラズランの右の実験と同じ刺激語及び検査語を用いて追試した。たとえラズランが唾液反応に終始したのに対して、リースはS.R.を用いた。被験者は四人及び一人を含む。その結果によると、同音異義語に対する唾液化の平均値は同義語に対するばかりを示す。それは四・五％、同音異義語に対する唾液化は四十一・〇％である。被験者は四人及び二人を含む。その結果によると、同音異義語に対する唾液化の平均値は同義語に対するばかりを示す。それは四・五％、同音異義語に対する唾液化は四十一・〇％である。被験者は四人及び一人を含む。その結果によると、同音異義語に対する唾液化の平均値は同義語に対するばかりを示す。それは四・五％、同音異義語に対する唾液化は四十一・〇％である。被験者は四人及び二人を含む。その結果によると、同音異義語に対する唾液化の平均値は同義語に対するばかりを示す。それは四・五％、同音異義語に対する唾液化は四十一・〇％である。被験者は四人及び一人を含む。その結果によると、同音異義語に対する唾液化の平均値は同義語に対するばかりを示す。それは四・五％、同音異義語に対する唾液化は四十一・〇％である。被験者は四人及び一人を含む。その結果によると、同音異義語に対する唾液化の平均値は同義語に対するばかりを示す。それは四・五％、同音異義語に対する唾液化は四十一・〇％である。被験者は四人及び一人を含む。その結果によると、同音異義語に対する唾液化の平均値は同義語に対するばかりを示す。それは四・五％、同音異義語に対する唾液化は四十一・〇％である。被験者は四人及び一人を含む。その結果によると、同音異義語に対する唾液化の平均値は同義語に対するばかりを示す。それは四・五％、同音異義語に対する唾液化は四十一・〇％である。被験者は四人及び一人を含む。その結果によると、同音異義語に対する唾液化の平均値は同義語に対するばかりを示す。それは四・五％、同音異義語に対する唾液化は四十一・〇％である。被験者は四人及び一人を含む。その結果によると、同音異義語に対する唾液化の平均値は同義語に対するばかりを示す。それは四・五％、同音異義語に対する唾液化は四十一・〇％である。被験者は四人及び一人を含む。その結果によると、同音異義語に対する唾液化の平均値は同義語に対するばかりを示す。それは四・五％、同音異義語に対する唾液化は四十一・〇％である。被験者は四人及び一人を含む。その結果によると、同音異義語に対する唾液化の平均値は同義語に対するばかりを示す。それは四・五％、同音異義語に対する唾液化は四十一・〇％である。被験者は四人及び一人を含む。その結果によると、同音異義語に対する唾液化の平均値は同義語に対するばかりを示す。それは四・五％、同音異義語に対する唾液化は四十一・〇％である。被験者は四人及び一人を含む。その結果によると、同音異義語に対する唾液化の平均値は同義語に対するばかりを示す。それは四・五％、同音異義語に対する唾液化は四十一・〇％である。被験者は四人及び一人を含む。その結果によると、同音異義語に対する唾液化の平均値は同義語に対するばかりを示す。それは四・五％、同音異義語に対する唾液化は四十一・〇％である。被験者は四人及び一人を含む。その結果によると、同音異義語に対する唾液化の平均値は同義語に対するばかりを示す。それは四・五％、同音異義語に対する唾液化は四十一・〇％である。被験者は四人及び一人を含む。その結果によると、同音異義語に対する唾液化の平均値は同義語に対するばかりを示す。それは四・五％、同音異義語に対する唾液化は四十一・〇％である。被験者は四人及び一人を含む。その結果によると、同音異義語に対する唾液化の平均値は同義語に対するばかりを示す。それは四・五％、同音異義語に対する唾液化は四十一・〇％である。被験者は四人及び一人を含む。その結果によると、同音異義語に対する唾液化の平均値は同義語に対するばかりを示す。それは四・五％、同音異義語に対する唾液化は四十一・〇％である。被験者は四人及び一人を含む。その結果によると、同音異義語に対する唾液化の平均値は同義語に対するばかりを示す。それは四・五％、同音異義語に対する唾液化は四十一・〇％である。被験者は四人及び一人を含む。その結果によると、同音異義語に対する唾液化の平均値は同義語に対するばかりを示す。それは四・五％、同音異義語に対する唾液化は四十一・〇％である。被験者は四人及び一人を含む。その結果によると、同音異義語に対する唾液化の平均値は同義語に対するばかりを示す。それは四・五％、同音異義語に対する唾液化は四十一・〇％である。被験者は四人及び一人を含む。その結果によると、同音異義語に対する唾液化の平均値は同義語に対するばかりを示す。それは四・五％、同音異義語に対する唾液化は四十一・〇％である。被験者は四人及び一人を含む。その結果によると、同音異義語に対する唾液化の平均値は同義語に対するばかりを示す。それは四・五％、同音異義語に対する唾液化は四十一・〇％である。被験者は四人及び一人を含む。その結果によると、同音異義語に対する唾液化の平均値は同義語に対するばかりを示す。それは四・五％、同音異義語に対する唾液化は四十一・〇％である。被験者は四人及び一人を含む。その結果によると、同音異義語に対する唾液化の平均値は同義語に対するばかりを示す。それは四・五％、同音異義語に対する唾液化は四十一・〇％である。被験者は四人及び一人を含む。その結果によると、同音異義語に対する唾液化の平均値は同際
別の実験（35）に於ては、条件語としてロシア語が用いられた。被験者はロシア語に不案内成人名、これを三群に分つ。N群は語の意味を教えられ、従ってテスト前にそれを告げられる。G群と条件形成の前に一組の意味を教えられ、従ってテスト前に組み入れられる。ラズランは、この実験で明らかにされた重要な前並びの論文（44）に於て、ラズランは構文汎化 syntactic generalization と言及している。唾液反応を例えれば、Por.

この結果を見るに汎化量は（1）一般の一致、（2）一致、（3）述語、（4）主語の順に減少を示した。なおラズランは、条件づけられた単語は、これを文章中に組入る時には、その汎化強度の減少を示すことを主張している。

ラズランはまた構えが意味論的汎化に影響することを主張している。それが文章中で述べられている時には、その汎化強度の増加を示すことを主張している。従ってC群の被験者は構え制限連想テストで上位概念の連想を経験している。されたC群も偽の影響は偽著に現れている。


